

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

市民経済部環境課

市民経済部長 滝本均

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
1	狂犬病予防事業	なし	B	令和元年度は、市外転出者に対して、例年送付している狂犬病予防注射のお知らせハガキに、転出先での登録手続きを促す内容を加えた。また、海外転出者に対しては、転出前の所在地に親族等がいる場合は、犬の所在を把握したうえで、飼い主の変更手続きを行い、畜犬台帳の適正化を図った。	改善 推進	令和元年度末現在、畜犬台帳に登録している犬の頭数は7,176頭であり、令和元年度に注射を接種した犬は6,153頭だった。畜犬台帳上では、転出もしくは既に死亡している可能性が高い犬124頭、高齢、病気等の理由で注射を猶予された犬100頭の登録があった。このことから、実質、注射を接種しなければならない犬は6,952頭であり、目標値に近い約89%の犬が予防注射を接種したことになる。しかし、約11%の犬が注射を接種しておらず、また、国内で狂犬病の発症者が確認されたこともあり、引き続き犬の飼い主に対して予防注射実施の必要性を広報、周知していく。
2	墓地管理事業	なし	B	市営墓地約18,000区画のうち、使用者不明の区画について、昨年度に引き続き置手紙を実施し、承継及び返還を促した。年度当初に4市営墓地計約2,300区画あった置手紙未実施の使用者不明区画に対して実施し、1,425区画について、承継や返還手続きを完了することができた。 これで、全市営墓地の使用者不明区画に対する置手紙が一通り完了したが、残る承継手続き未完了区画の対応については、今後の課題である。また、令和2年度に策定予定の「半田市墓地管理計画」の参考とするため、墓地使用者及び墓地を使用していない市民、計2,000人に対して、今後の市営墓地のあり方に関するアンケート調査を行い、55%の高い回収率を得た。	改善 推進	置手紙を実施しても連絡がない区画については、再度の置手紙などにより、使用者の把握に努める。また、置手紙に対して連絡はあったが、承継等の手続きが済んでいない区画については、電話などによる使用者変更等手続きの催促を行う。 令和2年度には、市営墓地をより快適な施設として整備し、適正に維持管理するための基本方針を定めた「半田市墓地管理計画」を策定する。
3	墓地施設快適化推進事業	あり	C	老木や危険高木の伐採については、お盆前に全ての作業を完了し、台風等の災害から墓参者や近隣住民の財産を守ることができた。一方で、花木の伐採や、伐採後の跡地の管理等について、景観上の課題が残った。 水汲み場の改修については、洗い場の高さの改善と蛇口の増設により、墓参者の利便性を向上させることができた。しかし、給水工事改造申請手続きにかかる不手際により、一部の墓地において、お盆までに工事を完了することができず、墓参者にご不便とご迷惑をおかけしました。 通路整備については、北谷墓地の未舗装通路に暗渠排水管を設置し、排水不良箇所の水溜まりを解消することができた。 土留設置については、北部墓地の通路に面した法面に板柵土留を設置し、通路への土砂流入と、法面の崩壊を防止することができた。	改善 推進	今後の墓地施設整備については、中長期的な整備から早期整備への転換を図り、墓地利用者の更なる利便性の向上と安全性の確保に努める。 また、令和2年度中に策定する「半田市墓地管理計画」に基づき、近年のライフスタイルの変化や少子高齢化等による無縁化や墓じまいの増加、高齢者や障がい者の利用などに配慮した施設整備を行っていく。

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
4	環境保全事業	あり	C	大気の常時監視や公共水域の水質調査等により、市内の生活環境が概ね良好であることが確認できた。 また、市民が市内の河川等の身近な水環境の実態を知ることができるよう、公共水域の水質調査結果を市ホームページに掲載した。 令和元年度には、新たに3件の事業所と環境保全協定を締結することができた。 地域猫活動については、新たに、公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業（行政枠）」を活用することで、任坊山公園や十ヶ川周辺など、5つの地区において個人で活動するボランティアの支援を行った。その結果、12匹に対して不妊去勢手術を実施し、野良猫の増加を抑制した。	改善 推進	環境パートナーシップ会議等で特に指摘を受けている矢勝川の水質については、令和2年度の水質調査委託において調査地点を増やすなどにより、汚濁源の把握に努める。原因分析には専門的な知識や技術が必要となることも考えられるため、専門機関への調査分析の委託についても検討する。汚濁源が確認された場合は、関係機関と協議して原因を除去するよう努める。 事業拡大を行う事業所や新規に立地する事業所に対しては、環境保全協定の締結を呼び掛ける。締結後は、定期的に立ち入り調査を実施し、協定項目が遵守されているかどうかを調査する。 また、「ゼロカーボンシティ」を表明したため、環境保全協定締結事業者に対しても、積極的にゼロカーボンへの協力を働き掛けていく。 地域猫活動については、活動を行うボランティア団体・個人の市への登録制度を設けるとともに、活動地域を拡大していく。
5	環境学習事業	なし	C	今年度は、「参加者数の維持」と「内容充実及び参加者満足度の向上」に重点を置き実施した。参加者数については、バックテストの劇物指定により資料が購入できず水質講座を休止した他、新型コロナウイルス感染症の関係で、保育園で申し込みのあった紙芝居講座の3月分を休止した影響もあり、環境学習出前講座で減少した。内容の充実及び満足度向上については、水辺マップの下敷きの更新・増刷や参加者の声を反映させるアンケート調査を実施し、満足度は96%であった。	改善 推進	「環境学習」という括りではなく、「水環境」や「生物多様性」というテーマで、環境分析調査などとも関連させた事業への転換を図る。また、イベント的な事業となっている「環境学習」を、他部署との連携などによる横断的、継続的な「環境教育」として推進するための取組みを検討する。
6	地球温暖化対策事業	なし	D	令和2年3月議会において、市長が「2050年CO2排出量実質ゼロ」の表明を行った。 「はんだエコアクション2019」においては、目標数値を定めて取り組んだものの、CO2排出量については目標に達することなく最終年度を迎えた。 手軽に家庭で取り組みやすい地球温暖化対策としての「緑のカーテン」については、半田農業高校の協力で「緑のカーテン育て方講座」の内容の充実（事前質問を募集し講座に反映させる等）が図られ、新たに取組世帯を増やすことが出来た。	拡充 推進	温室効果ガスの排出量削減に向けて、家庭や事業者向けの補助金制度の創設を検討していく。また、「はんだエコアクション2019」の後続計画として「半田市公共施設CO2排出削減対策実行計画」を策定し、その推進を図り、市が一事業者としての率先した行動により、地球温暖化防止に向けて取組みを行う。

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己 評価	評価内容	方向性	内容
7	畜産臭気監視事業	あり	B	大同大学との共同研究で開発した簡易臭気センサーを活用することで、これまで専門業者に委託することでしかできなかった臭気の可視化(数値化)ができるようになり、効率的な臭気測定を実施することができた。また、同じく共同研究で得た知見を活かし、ふん尿の含水率の調整に臭気対策の焦点を絞ることで、畜産農家に対して分かりやすい指導・助言を行うことができた。ただし、継続して強い臭気が発生している施設もあり、それらの施設の臭気をいかにして低減するかが課題である。	改善 推進	継続して強い臭気が発生している施設に関しては、これまでも含水率の調整や畜舎の清掃などの指導・助言を行ってきた。ふん尿の量が乾燥施設の処理能力をオーバーしている可能性も考えられるため、今後は、飼養頭数と乾燥施設の面積等にも着目する。臭気指数が高い傾向にある畜産農家がある程度絞られてきたので、集中的に、臭気問題の解決に取り組む。
8	第2次環境基本計画策定事業	あり	C	市民2,000件、事業者100件及び小中学生(市内18校の小学5年生又は中学2年生の1クラス)を対象にアンケートを行ったが、市民・事業者では回収目標値を下回った。回収率が上がるような様式やレイアウト等工夫する必要がある。	終了	環境審議会、第2次半田市環境基本計画策定委員会等を運営し、パブリックコメントを経て、アンケート結果を踏まえ、市民ニーズに対応する計画を令和2年度中に策定する。 第2次半田市環境基本計画は、SDGsの視点や再生可能エネルギーの活用推進、「2050年CO2排出量実質ゼロ」を達成するための施策などを盛り込んだものとする。
9	バイオマス利活用支援事業	あり	B	構想の中心プロジェクトであるバイオガス発電施設の整備に関しては、国からの交付金を、愛知県及び本市を經由して、プロジェクトの進行を担う民間事業者に交付するよう、適正に事務を執行し、事業者の支援ができた。 令和元年度においては、台風によるプラントメーカーや下請け工場の被災等により、事業に遅延が発生したが、国や県、事業者との綿密な調整、協議により、翌年度への事業繰り越しが認められ、交付決定どおりの補助金が交付される見込みである。	拡充 推進	事業者に対し、必要な支援を行い、バイオガス発電を推進する。現在、バイオガス発電施設の整備工事が進行しており、令和3年秋に稼働開始予定である。今後は、構想の中心プロジェクトである「バイオガス発電」と、他の3つのプロジェクトを連携して継続させていくために、市、県、学識経験者、関係事業者などで構成する推進委員会を設置して、進捗を管理する。
課等長	1次評価(元年度の総括評価)					
C	成果があったとするB評価が全体の半数以下であったことは、残念なことであり、今後は、事業の目的を認識し、更なる取組みを進めることが必要であるとする。 墓地の水汲み場改修工事では、墓参者の利便性に配慮して、お盆に入る前に改修工事を終わらせる予定でした。ところが、設計者のミスにより、完了するはずだった改修工事はお盆までに終わらず、不便・迷惑を掛けてしまった。一方、置手紙による使用者不明区画の現況調査の結果、約5,700区画のうち約3,900区画の使用者が判明した。回答が無い残りの区画についても、使用者、承継者の有無の確認を急ぐ。 畜産臭気監視事業では、前年度の調査データにより、基準値を上回る畜産農家が絞られてきたので、臭気問題の解決に向け取り組んでいく。 環境保全事業では、河川等の水質測定結果をホームページに公表した。さらには、地域環境の保全を推進するため、大気、水質、騒音等に関する保全協定の締結を申し入れ、3事業所と締結した。 地球温暖化対策事業では、市の事務及び事業に伴い排出される温室効果ガスを削減するため、「半田市公共施設CO₂削減対策実行計画」を策定し、令和12(2030)年までの温室効果ガスの削減目標と施策の方向性を示した。					
部等長	2次評価(元年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
B	環境課は、狂犬病予防・墓地管理などの環境衛生の分野と騒音・振動・悪臭防止・地球温暖化対策などの環境保全の分野を担当しており、施策の企画力と対応の機動力が求められる。 狂犬病予防事業については、国内における狂犬病発症者の出現に鑑み、市外転出者や国外転出者への登録を促すなど、狂犬病の発生予防という事業目的をよく追求している。 墓地管理事業については、置手紙方式による使用者不明区画の解消を粘り強く実施してきており、令和元年度までに市営墓地の全不明区画について一巡させた。 畜産臭気監視事業では、経済課とともに54か所の市内全畜産施設の臭気測定を年3回実施したところ、毎回測定値が高い施設を数か所に絞ることができ、糞尿の含水率等の原因追究等により臭気発生の改善が期待される。また、測定結果が良好な施設については、適正管理を維持するよう通知し、事業者の不安解消にも貢献している。 一方、環境保全事業のうち、矢勝川のBODの値が高い状況は、ここ数年改善できておらず、家庭排水のみならず畜産由来の調査についても徹底が必要である。 地球温暖化対策事業では、令和元年度が最終年度となった「はんだエコアクション2019」のCO₂排出目標が達成できなかった。新たにゼロカーボンシティの表明を行っており、公共セクターとしてCO₂などの温室効果ガスの排出抑制に確実に取り組むマインドとシステムの確立が必要である。					